

國民  
必携

商業用文講釋

上卷

特33

418

080.106-001-3

特33-418

商業用文講釋

香川 一秀/著

上

M24

DAC-4242



香川一秀 著  
留本方圓齋揮毫

國民  
北橋  
高貴南史集解

大政  
續善館藏

目次  
一 緒言  
二 第一章  
三 第二章  
四 第三章  
五 第四章  
六 第五章  
七 第六章  
八 第七章  
九 第八章  
十 第九章  
十一 第十章  
十二 第十一章  
十三 第十二章  
十四 第十三章  
十五 第十四章  
十六 第十五章  
十七 第十六章  
十八 第十七章  
十九 第十八章  
二十 第十九章  
二十一 第二十章  
二十二 第二十一章  
二十三 第二十二章  
二十四 第二十三章  
二十五 第二十四章  
二十六 第二十五章  
二十七 第二十六章  
二十八 第二十七章  
二十九 第二十八章  
三十 第二十九章  
三十一 第三十章  
三十二 第三十一章  
三十三 第三十二章  
三十四 第三十三章  
三十五 第三十四章  
三十六 第三十五章  
三十七 第三十六章  
三十八 第三十七章  
三十九 第三十八章  
四十 第三十九章  
四十一 第四十章  
四十二 第四十一章  
四十三 第四十二章  
四十四 第四十三章  
四十五 第四十四章  
四十六 第四十五章  
四十七 第四十六章  
四十八 第四十七章  
四十九 第四十八章  
五十 第四十九章  
五十一 第五十章  
五十二 第五十一章  
五十三 第五十二章  
五十四 第五十三章  
五十五 第五十四章  
五十六 第五十五章  
五十七 第五十六章  
五十八 第五十七章  
五十九 第五十八章  
六十 第五十九章  
六十一 第六十章  
六十二 第六十一章  
六十三 第六十二章  
六十四 第六十三章  
六十五 第六十四章  
六十六 第六十五章  
六十七 第六十六章  
六十八 第六十七章  
六十九 第六十八章  
七十 第六十九章  
七十一 第七十章  
七十二 第七十一章  
七十三 第七十二章  
七十四 第七十三章  
七十五 第七十四章  
七十六 第七十五章  
七十七 第七十六章  
七十八 第七十七章  
七十九 第七十八章  
八十 第七十九章  
八十一 第八十章  
八十二 第八十一章  
八十三 第八十二章  
八十四 第八十三章  
八十五 第八十四章  
八十六 第八十五章  
八十七 第八十六章  
八十八 第八十七章  
八十九 第八十八章  
九十 第八十九章  
九十一 第九十章  
九十二 第九十一章  
九十三 第九十二章  
九十四 第九十三章  
九十五 第九十四章  
九十六 第九十五章  
九十七 第九十六章  
九十八 第九十七章  
九十九 第九十八章  
一百 第九十九章  
一百零一 第一百章

一 緒言  
二 第一章  
三 第二章  
四 第三章  
五 第四章  
六 第五章  
七 第六章  
八 第七章  
九 第八章  
十 第九章  
十一 第十章  
十二 第十一章  
十三 第十二章  
十四 第十三章  
十五 第十四章  
十六 第十五章  
十七 第十六章  
十八 第十七章  
十九 第十八章  
二十 第十九章  
二十一 第二十章  
二十二 第二十一章  
二十三 第二十二章  
二十四 第二十三章  
二十五 第二十四章  
二十六 第二十五章  
二十七 第二十六章  
二十八 第二十七章  
二十九 第二十八章  
三十 第二十九章  
三十一 第三十章  
三十二 第三十一章  
三十三 第三十二章  
三十四 第三十三章  
三十五 第三十四章  
三十六 第三十五章  
三十七 第三十六章  
三十八 第三十七章  
三十九 第三十八章  
四十 第三十九章  
四十一 第四十章  
四十二 第四十一章  
四十三 第四十二章  
四十四 第四十三章  
四十五 第四十四章  
四十六 第四十五章  
四十七 第四十六章  
四十八 第四十七章  
四十九 第四十八章  
五十 第四十九章  
五十一 第五十章  
五十二 第五十一章  
五十三 第五十二章  
五十四 第五十三章  
五十五 第五十四章  
五十六 第五十五章  
五十七 第五十六章  
五十八 第五十七章  
五十九 第五十八章  
六十 第五十九章  
六十一 第六十章  
六十二 第六十一章  
六十三 第六十二章  
六十四 第六十三章  
六十五 第六十四章  
六十六 第六十五章  
六十七 第六十六章  
六十八 第六十七章  
六十九 第六十八章  
七十 第六十九章  
七十一 第七十章  
七十二 第七十一章  
七十三 第七十二章  
七十四 第七十三章  
七十五 第七十四章  
七十六 第七十五章  
七十七 第七十六章  
七十八 第七十七章  
七十九 第七十八章  
八十 第七十九章  
八十一 第八十章  
八十二 第八十一章  
八十三 第八十二章  
八十四 第八十三章  
八十五 第八十四章  
八十六 第八十五章  
八十七 第八十六章  
八十八 第八十七章  
八十九 第八十八章  
九十 第八十九章  
九十一 第九十章  
九十二 第九十一章  
九十三 第九十二章  
九十四 第九十三章  
九十五 第九十四章  
九十六 第九十五章  
九十七 第九十六章  
九十八 第九十七章  
九十九 第九十八章  
一百 第九十九章  
一百零一 第一百章

初丁  
四  
六  
七  
十

三四

特 33  
418

日本二杯會  
茶屋色場下

新茶山 未利  
大坂 市  
京都 大 徳 山  
大津 山 徳  
大津 山 徳  
大津 山 徳  
大津 山 徳

目録

細布茶臼状

春籠張込状

一 同 色 奉

一 茶 會 中 合 状

一 同 色 奉



千 七 六 四

①

大垣 山田 若  
 若 杉 坂 日  
 教 院 日  
 今 次 加 大 寺 日  
 小 松 日 高 田 日  
 新 保 日 甲 府 日  
 後 府 日 法 律 日  
 仙 臺 日 金 澤 日

一 旅 行 人 儀 別 送 状 十二  
 一 同 色 事 十四  
 一 旅 宿 人 儀 状 十六  
 一 同 色 事 十八  
 一 旅 宿 我 家 送 状 十九  
 一 旅 宿 儀 白 送 状 二十

秋 田 日 彦 日  
 山 形 日 水 日  
 青 森 日 和 日  
 福 崎 日 姫 日  
 圓 山 日 坂 日  
 藤 田 日 宮 日  
 藤 田 日 下 日  
 板 橋 日 博 日

一 同 色 事 二十四  
 一 帰 國 後 送 留 先 礼 状 二十六  
 一 秀 白 送 状 二十九  
 一 同 色 事 三十一  
 一 味 達 人 儀 状 三十三  
 一 同 色 事 三十四



各山 改印 宗印 改印  
小漢 姓 名 漢 改  
上 所 目 多 相 大 志  
漢 松 江 國 備 奉  
上 四 儀 和 田 家 持  
高 山 經 鏡 林 寺  
堂 都 下 依 念 院 下  
己 上

|          |     |
|----------|-----|
| 一 各山改印の状 | 六十九 |
| 一 同日五事   | 六十七 |
| 一 張條送家状  | 六十五 |
| 一 同日五事   | 六十三 |
| 一 同日五事   | 六十一 |
| 一 同日五事   | 六十九 |

△書狀

同曆新陽

印年改印  
東南新陽

信守志光  
書此狀賀

初市案内状

# 新春の所産目録

○新春の所産とは...

よりの新くお祭新まるのきざり  
御いこのくこの新一...

○中納言

○侍

○清安泰

中書省

中書省

中書省

中書省

中書省

うきき紙の例はるきと用ひと或

書し忍ぶるりの中書省とは右の日出度

事とや

先ん直許権

先ん直許権

先ん直許権

先ん直許権

先ん直許権

○中納言

○侍

○清安泰

○中書省

○中書省

○中書省

○中書省

○中書省

その境目を権限といふその心こそせと如

と動りとの境目をもとて切の場があるや何

事の際もあつて後ひ例より出たりとな

今もあつて無き人へは許権限とて事

定例とかりたりとある書し忍ぶるりの中書省

先ん直許権

先ん直許権

先ん直許権

先ん直許権

○ 神皇正統記

高始

○ 尚年七列

代官の

あつた

○ 田舎の

荷物も

あつた

○ 神皇正統記

神市

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

何年

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記

○ 神皇正統記





● 海客談

日野文吉の

● 浮城物語

氷花の

● 関守の

● 親

● 小

● 小

● 徳梅花の

● 小

● 棹

● 徳

● 小

● 徳

● 小

● 徳

● 松

● 小

● 孤

● 一

● 旗

● 旗

● 旗

● 旗

● 沙

● 勝

● 石

● 報

● 報

● 報

● 報

● 報

● 報

中夜を寝  
 破籠小竹筒  
 用とはんる  
 交白沙ん記  
 酒飯ノ粒  
 華食兼養

中付並らるる必沙厚配  
 以下ろ敷い不言  
 用をとりつ。善信中付並らるるは  
 以下ろ敷い不言

○ 砂別荘  
 以下ろ敷い

○ 砂別荘  
 以下ろ敷い

△ 書巻

田色車

○ 砂別荘  
 以下ろ敷い  
 ○ 田色車  
 以下ろ敷い  
 ○ 田色車  
 以下ろ敷い

砂別荘の海に  
 田色車  
 以下ろ敷い

- 難者 徒を海
- 新橋 系塚
- 有境 系塚
- 善也 系塚
- 一入 系塚
- 不仕

けいしち 新橋も 竹徑  
 信春系に 付  
 氏志像に 同形可仕に

けいしち 新橋も 竹徑  
 信春系に 付  
 氏志像に 同形可仕に

- 春展 龍圖
- 春展 縁む
- 春展 重慶
- 春展 右の系糸

春展 龍圖  
 春展 縁む  
 春展 重慶  
 春展 右の系糸

春展 龍圖  
 春展 縁む  
 春展 重慶  
 春展 右の系糸



○ 徳川一門の

○ 後尾西懸

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 右は是等

○ 一月の集會

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 春八日於浮遊

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 徳川一門の

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 集會多合

○ 酒飯支度  
酒飯支度

○ 料理支度  
料理支度

○ 薪炭支度  
薪炭支度

○ 雑費支度  
雑費支度

○ 寄附金  
寄附金

○ 義理金  
義理金

○ 酒飯支度  
酒飯支度

○ 酒飯支度  
酒飯支度

○ 料理支度  
料理支度

○ 薪炭支度  
薪炭支度

○ 雑費支度  
雑費支度

○ 寄附金  
寄附金

○ 義理金  
義理金

○ 酒飯支度  
酒飯支度

○ 料理支度  
料理支度

料理向帳  
料理向帳

料理向帳  
料理向帳

○ 酒飯支度  
酒飯支度

料理向帳  
料理向帳

△書紙

○去んす日

○所お入

○口口口

○口口口

○書紙

○口口口

○口口口

おきくへん

# 同進事

一時の事

口口口

口口口

○口口口

○口口口

○口口口

○口口口

○口口口

○口口口

○口口口

○口口口

口口口

# 口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口

口口口



○ 身察入みまはりい

身推察みおしり

○ ねたみねたみ

人附ひとづき

身察みまはり

身察みまはり

憑入よこりい

憑入よこりい

○ ねたみねたみのついでに、

骨打ほねうちとついでに、

その骨打とついでに、

まゐるとこれとついでに、

のねたみとついでに、

くねたみとついでに、

まゐるとこれとついでに、

のねたみとついでに、

○ ねたみねたみ

ねたみねたみ

ねたみねたみ

○ ねたみねたみ

ねたみねたみ

ねたみねたみ

ねたみねたみ

ねたみねたみ

けくねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

ねたみのついでに、

○此後四用控

この後四用控

○此後

此後の諸事

△書格

○書格

書格

書格

此後少許書格も

○此後少許書格も

旅行人旅行書格

旅行人旅行書格

旅行人旅行書格

○他國遠

他國遠

○教習

教習

教習

○暑

暑

○中

中  
○此後少許書格も

道中少許書格も

○白暑

白暑

芳人 奉若

奉若 若奉

○推察 推察

持料 持料

○同く 同義

○儀別 儀式

儀義 相義

儀儀 儀儀

ひふの時 時節の別とて大儀であらふを

ひふ事 ○察入中んのかりいの中とて

推察 推察のいひ

為儀 諸白一掃 贈を

儀 ○儀とは掃く出まざるまゝらて

を卑下しとらふ ○儀の意方へ掃まざるの意か  
意方の人我と他とあり居るを別とせり

○為儀 兼儀

竹葉 紫葉

○一瓶 一壺

一花

○進上 進上

密の目 密の目

○看尾 看尾

をて 儀儀

人より別る時 杯は必儀ありとて

送り交りて 源くさるるや 古今の礼儀あり

儀のいふはけの 一掃の何れも 掃目あり

をて 儀のいふはけの 一掃の何れも 掃目あり

中邦 中邦

宅 宅

をて 儀儀

をて 儀儀

田舎車

△書格  
 ○今般今夜  
 ○田舎、舟下  
 ○舟、板立  
 ○後足  
 ○足酒、体酒  
 ○海

い度う舟も舟夜

舟夜い舟  
○け度う人の用白が

舟夜舟夜  
○舟夜舟人の用白が

舟夜舟夜  
○舟夜舟人の用白が

○傳給  
 ○山原志 思た者  
 ○船有仕合  
 ○船屋紙上  
 ○難神物屋  
 ○船中射  
 ○石窓 石窓外  
 ○田舎車

あ舟難中舟下  
○舟夜の

あ舟難中舟下  
○舟夜の

あ舟難中舟下  
○舟夜の

○ 昨夜のちがひ  
○ 宿事未緒  
○ 何れも  
○ 昨夜のちがひ  
○ 宿事未緒  
○ 何れも

○ 昨夜のちがひ  
○ 宿事未緒  
○ 何れも

③十甲  
○ 昨夜のちがひ

○ 昨夜のちがひ  
○ 宿事未緒  
○ 何れも

○ 昨夜のちがひ  
○ 宿事未緒  
○ 何れも

旅宿の奇状

昨夜のちがひ





○ 内田の書

○ 連立

○ 遠鄙酒巻

○ 遊坊御里

○ 湯

○ 湯

○ 田舎の書

○ 可白先

くんと電 伝安事

凡おは散 積蓄

○ 田舎者とはつらうがせと年ト一とつらう  
○ 電はゆき事とつらうとんト一とつらう  
○ 積蓄ははやとつらうとんト一とつらう

田舎後家 族を打集

○ 世後

○ 散蓄積蓄

○ 微族 年換

○ 微果

○ お交 お交

○ お新 時

○ 中 積

○ 世後

お話 何言  
ち書 とお新 終

○ 田舎後とはつらうとんト一とつらう  
○ 散蓄積蓄とはつらうとんト一とつらう  
○ 微族とはつらうとんト一とつらう  
○ 微果とはつらうとんト一とつらう  
○ お交とはつらうとんト一とつらう  
○ お新とはつらうとんト一とつらう  
○ 中とはつらうとんト一とつらう  
○ 世後とはつらうとんト一とつらう



○ 慶長 大坂  
○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂

○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂

○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂

得りて候へども世にの通用ありて今  
文舞しつゝ及ぶに。何言とは和の糸  
のよりまゐるといふ事。お歌残をい  
たれをありてはとてまゐるといふ  
うらむびよの

旅が我家へ参る状

るち中へ参る事

式極まる候

○ 式極まる候

○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂  
○ 大坂 大坂

六日校に参るの候  
後へ道中へ参る候

いんじんてん

● 暁後之書又

及新後之書

意對六十五

○ 子持の書又

何まじりなり

いづ いまじり

暁に在り

了後い

○ 暁に在り

暁に在り

暁に在り

板用向く事

暁に在り

暁に在り

暁に在り

暁に在り

法用序

今めり

可し

○ 暁月中旬

暁月中旬

暁月中旬

○ 暁後序

暁後序

○ 暁に在り

暁に在り

暁に在り

下旬あり

暁に在り

暁に在り

難お來ひ

暁に在り

○大いんえぬき

○万幸 徳あり

○此後子らぞ

○花柳くさ

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○難言 甚なりと云ふことあり。○名譽

○是れも大い用ひ

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○万端 宜敷に

○全書 終

○つ別 さま

○此後 子らぞ

○万幸 徳あり

○大いん えぬき

○打色 中

○蓋 孫

○万端 宜敷に

○萬端 宜敷に

○萬端 宜敷に

○萬端 宜敷に

○萬端 宜敷に

○萬端 宜敷に

○ 中後 清輝

○ 子 夜

○ 入

○ 後

○ 玉

○ 小

○ 義

○ 光

○ 中後 清輝

○ 子 夜

○ 入

○ 後

○ 玉

○ 小

○ 義

○ 光

○ 諸用 抄

○ 後 事 處 合 意

○ 抄 一 冊

○ 思 介 不 家

○ 以 外

○ 數 日 滯 留

○ 昨 昨 昨

○ 今 生 刻

○ 用 的 細 意 と は 左 方 の 用 法 が

○ 後 事 處 合 意

○ 抄 一 冊

○ 思 介 不 家

○ 以 外

○ 數 日 滯 留

○ 昨 昨 昨

○ 今 生 刻

○ 子 夜

○ 用 的 細 意 と は 左 方 の 用 法 が

○ 後 事 處 合 意

○ 抄 一 冊

○ 思 介 不 家

○ 以 外

○ 數 日 滯 留

○ 昨 昨 昨

○ 今 生 刻

○何角万端

○私心世法

○唯習尊

○高良人形

○同是及煙火

○煥發後存

○平純千馬旅

○

私心人深而存

○何異の何よりよきこと。私心人の深きを

此お田舎細工の人

御ち養育く平とて致

○

○

○

○

○

○

○

○

を使ひ不悉

○

○

○

○

○ 名く 権えん  
石儀 石儀

△ 書 籍

- 長く 四 権 後
- 途 中 四 権 後
- 結 核 後 四 権

○ 不 意 の 事 へ ぐ ぐ ぎ だ と 門 と あり ぐ 権  
ふ と 子 息 と ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ ぞ

同 返 事

○ 山 長 権 後 四 権 中  
○ 山 長 権 後 四 権 中  
○ 山 長 権 後 四 権 中  
○ 山 長 権 後 四 権 中

- 山 長 権 後 四 権
- 山 長 権 後 四 権
- 山 長 権 後 四 権

○ 山 長 権 後 四 権  
○ 山 長 権 後 四 権  
○ 山 長 権 後 四 権  
○ 山 長 権 後 四 権

○ 〆〆〆〆

○ 一〆〆〆〆

〆〆〆〆

○ 〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

○ 〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

○ 〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

○ 〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

〆〆〆〆

- 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業

道中 壬午年 南月 二日

身 忠 慶 心

行 公 叔 儀

- 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業  
○ 常楽泰内社業

帰 國 仕 公

後 山 安 通 下 成 下 心

湯 山 地 通 為 中 心



- 洋局中
- 孫 別
- 寄附世叔
- 信用月候
- 融合金
- 懸切金

○ 孫 別 とほろりの換換であるところのふあなる  
○ 寄附世叔 ○ 其他の先の所とらてらふ。選當年一  
○ 信用月候 とごすんのわらうしゅうとらふ  
○ 融合金 とらふ  
○ 懸切金 とらふ  
**相行付難者仕入** あひうづき  
**存** あひうづき  
○ 存

- 寄附
- 開万奉
- 存れ
- 中
- 万附
- 寄附
- 存れ
- 右

○ 寄附 うけきりてとらふ  
○ 開万奉 下さるるよりよゆりく  
○ 存れ お片付とは用事から  
○ 中 とらふ  
○ 万附 ふあがらう  
○ 寄附 事とあらう  
○ 存れ あひうづき  
○ 右 あひうづき  
**不** あひうづき  
**夜** あひうづき  
**中** あひうづき  
(四) 五七



- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ

魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ

- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ
- 魚のこ

魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ  
 魚のこ

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

○ 書院の書院

沙汰の事

沙汰の事

沙汰の事

沙汰の事

沙汰の事

沙汰の事

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

○ 不具不

不具不

不具不

不具不

不具不

不具不

不具不

不具不

不具不

同巻事

玉系辱洋漢は作

彼とんを本とん

玉系辱洋漢は作

おやめり  
思ひあふ

○ 儲者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

今晚得梅ありは

石丸放棄を了は

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 孫者 孫者  
びりり まんのま  
英者 孫者

○ 龍衣 持美

款待

○ 正通

○ 後志 森悦

○ 杉野 西三

白糸 若白

洋眉 西三

○ 藤原 宗利

掃除ありいの度愛の強け頼みおあふをり

白くふりまうくりあふがらうとふあふうと龍

毛とはりふ **城** 入るふく

包うふ **夏** 大 吹く 玉の 吹く 者

お新 美く 丸の 下は

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

○ 藤原 宗利

未 得 人 遺 状

未 得 法 意 の 得 者

一 筆 破 上 仕 儀

三十三

持たれぬ

高一封録

一書令

○以新由

○善も善日

り以 幸来

○ワ知人知者

初色 在月

事ハあると

○一筆

時善法向合

善く存

折赤

○善く

○西

同席

○水

○相

○善

中

中

中

○善く

○善く

○善く

○善く

○善く

○善く

たむく

○ てんご 幕上

たむく 幕上

たむく 幕上

たむく 幕上

△ たむく 幕上

○ 煙冊 煙書

たむく 芳れ 芳書

命の書 いのちのしよ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

# 目次

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

○ 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき 煙巻 たむくまき

たむく 煙巻 たむくまき

○ 年月 年比

たむく 年月 年比

たむく 年月 年比

たむく 年月 年比

○ 素書 たむく 素書 たむく

○ 紙面 たむく 紙面 たむく

## 少楽に入意中夜

たむく 少楽に入意中夜 たむく

たむく 少楽に入意中夜 たむく

たむく 少楽に入意中夜 たむく

たむく 少楽に入意中夜 たむく

たむく 少楽に入意中夜 たむく

たむく 少楽に入意中夜 たむく



○いば 白後

向來 白後

白今 白後

○空海 白後

世如 白後

空海 白後

○白後 白後

○白後 白後

○教月 白後

のぞき 白後

はんとは 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

草花 白後

○空海 白後

ワ草花 白後

○空海 白後

△書後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○空海 白後

○ 書法 書上  
○ 書儀 書上  
○ 書儀 書上

○ 書法 書上  
○ 書儀 書上  
○ 書儀 書上

○ 終日 深々  
○ 終日 深々

○ 終日 深々  
○ 終日 深々

○ 終夜 面青  
○ 終夜 面青

○ 終夜 面青  
○ 終夜 面青

○ 懐疑 欣然  
○ 懐疑 欣然

○ 懐疑 欣然  
○ 懐疑 欣然

○ 大悦 面赤  
○ 大悦 面赤

○ 大悦 面赤  
○ 大悦 面赤

○ 約定 契約  
○ 約定 契約

○ 約定 契約  
○ 約定 契約

○ 西約 約條  
○ 西約 約條

○ 西約 約條  
○ 西約 約條

○ 學書 書籍  
○ 學書 書籍

○ 學書 書籍  
○ 學書 書籍

○ 君借 借備  
○ 君借 借備

○ 君借 借備  
○ 君借 借備

○ 僕 小者  
○ 僕 小者

○ 僕 小者  
○ 僕 小者

○ 大慶 多斜 奇也  
○ 大慶 多斜 奇也

○ 大慶 多斜 奇也  
○ 大慶 多斜 奇也

○ 法中 上 以 卷 為 不 苦  
○ 法中 上 以 卷 為 不 苦

○ 法中 上 以 卷 為 不 苦  
○ 法中 上 以 卷 為 不 苦

○ 法中 上 以 卷 為 不 苦  
○ 法中 上 以 卷 為 不 苦

ぬれ 下を  
迎目を白

不慮也

波濤 蒼雨

東還 白雲

清静 正徳

清静 正徳

不備 光徳

三十一

まづ 借申中 後のうららふと  
りりり。此者ハ 後とは とも 悉く 相を け使へ

高きと 親の子と

了 清い 故首

親の 子と 是と は 是の 事と 此の 用を 細と  
し 親の 子と 是と は 是の 事と 此の 用を 細と  
し 親の 子と 是と は 是の 事と 此の 用を 細と  
し 親の 子と 是と は 是の 事と 此の 用を 細と  
し 親の 子と 是と は 是の 事と 此の 用を 細と

△書 概

△書 概

△書 概

△書 概

△書 概

△書 概

△書 概

△書 概

目 憂 子

如 乃 痛 此 行 と 初 白  
得 り 回 とも り 憂 又

の 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と  
の 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と  
の 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と  
の 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と  
の 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と り 憂 子 と

○ 教奉 香齋

○ 出帆 名深

○ 香齋 友親

○ 出帆 切石

○ 赤解 切石

○ その 後 其 辰

○ 乙未 乙未

○ 乙未 乙未

○ 在所 地圖

○ 香齋 介持

○ 赤齋 友親

○ 出帆 切石

○ 赤齋 友親

○ 出帆 切石

○ 赤齋 友親

○ 出帆 切石

ねん らいごく あんまのこ

年未出 別深 赤

情 下 大 収 存 存

○ 赤齋 友親

○ 出帆 切石

○ 赤齋 友親

○ 出帆 切石

○ 赤齋 友親

親 赤 友 親

赤 齋 友 親

出 帆 切 石

赤 齋 友 親

出 帆 切 石

赤 齋 友 親

出 帆 切 石

赤 齋 友 親

三十八

三十八

- 三條對し掛お
- 美園大徳系
- 屬し使者の
- 内務省の
- 内務省の
- 以寸指以切紙
- 以寸指以切紙

出入の事

前夜不遂人の事

以寸紙中の事

- 祝祭の色
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の
- 赤青の

道行の事

行先を他行

赤青の

不徒其...  
 少...  
 不...  
 林思...  
 梅...  
 伊...

時ふとら...  
 まし...  
 うは...  
 の...  
**若法用く後もりり**  
**下は...**  
**中めけり...**

〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...  
 〇...

〇...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

田忌車

○ 貴籍考冊  
 ○ 著札考冊  
 ○ 乃卷考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊

○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊  
 ○ 津丸考冊

四十一

貴籍考冊

乃卷考冊

津丸考冊

如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和

如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和

如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和

如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和

如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和 如來命時 既多 佐和

四十二

○ 新入 多分

○ 聖が縁も

○ 又にお新

○ 縁が

○ 又にお新

○ 縁が

○ 又にお新

○ 縁が

○ 新入 多分  
○ 聖が縁も  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が  
○ 又にお新  
○ 縁が

○ 新入 多分

○ 聖が縁も

○ 又にお新

○ 縁が

○ 又にお新

○ 縁が

○ 又にお新

○ 縁が

○ 新入 多分

○ 聖が縁も

○ 又にお新

○ 縁が

○ 又にお新



○ 淋愛 困窮  
○ 阿人 掃 幸 業 業

○ 不遠 山 岳

○ 不若 山 岳  
○ 計 時 計 量

○ 計 時 計 量  
○ 計 時 計 量

車 山 岳 不 夫 人  
○ 連 貫 的  
○ 連 貫 的

○ 無 情 無 義  
○ 無 情 無 義

○ 不 若 山 岳  
○ 不 若 山 岳

計 時 計 量 計 時 計 量

家 主 社 悦 ぶ 事 存  
○ 計 時 計 量  
○ 計 時 計 量

○ 計 時 計 量  
○ 計 時 計 量

雨 令 用 之 取 約 也  
○ 計 時 計 量  
○ 計 時 計 量

由 光 駕 而 作 之 不 令  
○ 計 時 計 量  
○ 計 時 計 量

○ 山 岳 務 業 業

○ 山 岳 務 業 業

○ 一 壺 一 掃

○ 掃 業 業

○ 掃 業 業

○西成 西成

西成 西成

○不慮 石伴

○不慮 石伴

不慮

△書替

○不慮 石伴

不慮 石伴

○一海のS...の金...

一人をすく...海...

人が来る...の...

○不慮...の...

○不慮...の...

# 同書中

そののら...の...

以の 中

○不慮 石伴

不慮 石伴

○不慮 石伴

不慮 石伴

不慮 石伴

○不慮 石伴

不慮 石伴

この...の...

この...の...

この...の...

この...の...

この...の...

この...の...

この...の...

○中国華北回國

○慈恵の折々

○新刊の使

○清結の

○古今抄

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の天候

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

○折々の

折々の書

折々の書

折々の書

折々の書

△書格

○去月 奉月

○南月 何日

○其の表の圖解

○天震地揺

○不覺震後

○不強揺る

○災者七歳

地震乃々後く状

去るも地大地震

る人家揺爰爰揺と

と大員未なり也

取及驚入中い

○名清も様

○石枕

○波板及板

○共大焼と

○因ま用候

○傳名義

○響歌撰入

りの大地震ると象お存なごらる

ますておどろき入

も家様

如何なり武由ん配

身家

どのいござりや

消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

○ 消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

消遣洗肝

ふがん  
不効船  
ふあん  
不効船  
ふあん  
不効船

△書紙

○せれ  
○せれ  
○せれ  
○せれ  
○せれ

つぎ

○せれ  
○せれ  
○せれ  
○せれ  
○せれ

同返事

つぎ  
つぎ  
つぎ  
つぎ  
つぎ

つぎ  
つぎ  
つぎ  
つぎ  
つぎ

○海地  
○海地  
○海地  
○海地  
○海地

○海地  
○海地  
○海地  
○海地  
○海地

③

- 如作業本
- 奉命之
- 南表之
- 行受者
- 孫之烈
- 聖家
- 聖死
- 作山

○ 子連のちやしくし。○ 狂言のあつらひの  
 ざれどし。○ 中絶志のあんならあるところの  
 ○ 難有のうま  
 ○ 作し海南地を  
 ○ なる者愛倒家性殺人  
 ○ 移愛言言培そり  
 ○ 以身之

- 教多
- 書信
- 前代
- 今中
- 希代
- 絶言
- 茅屋
- 小亭

○ 倒家の人  
 ○ 性殺人  
 ○ 然  
 ○ 移  
 ○ 以  
 ○ 作  
 ○ 南

○かき 研ツク  
 ○奴僕 奴婢ぬひ  
 ○下人 下人げにん  
 ○至極 至極しごく  
 ○お通 お通おとほ  
 ○名通 名通なとほ  
 ○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす

すししし ○被換おきか 家人けにん たる母はは  
 事こと なるく なるる 牌はい  
 由安よしやす たるる たるる  
 其その 中なか 表あは へ 候まう  
 心こころ 掛か たるる たるる 得え 者もの

○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす  
 ○由安 由安よしやす

○由安 由安よしやす たるる たるる 得え 者もの  
 心こころ 掛か たるる たるる 得え 者もの  
 其その 中なか 表あは へ 候まう  
 事こと なるく なるる 牌はい  
 由安よしやす たるる たるる  
 由安よしやす たるる たるる  
 其その 中なか 表あは へ 候まう  
 心こころ 掛か たるる たるる 得え 者もの



○史記 紀史  
○漢書 紀史

○今人のいふことあり下  
○紀史 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○用ん年 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

○高 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

○史記 紀史  
○漢書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

△書 紀史

○紀史 紀史 紀史 紀史

中 紀史 紀史 紀史 紀史

委 紀史 紀史 紀史 紀史

以 紀史 紀史 紀史 紀史

風 紀史 紀史 紀史 紀史

○ 時夜 時夜

時夜 時夜

○ 存 存

存 存

○ 不 不

○ 大 大

○ 魁 魁

○ 忍 忍

時夜と不とて疾風

名怖と不とて

奇はた大度と

彼を點交事と

○ 魁 魁

○ 不 不

○ 樹 樹

○ 敗 敗

○ 中 中

○ 長 長

○ 中 中

○ 居 居

○ 松 松

○ 大 大

○ 被 被

○ 魁 魁

○ 名 名

○ 奇 奇

○ 彼 彼

○ 先 先

○ 松 松

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

○ 書事 毎夫

同色中

山恋書存捧讀仕

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 聖人君子の徳

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 小野

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

○ 瑞屋 瑞宅

瑞屋 瑞宅

善陽振舞状

○ 酒取知く色

○ 酒取知く色

○ 養宮を金

○ 茶店 蓬麻

○ 腰衣 荻巻

○ 如來 落成

○ 雛

○ 如來湯 ぬす

葉白濁 葉肉 葉下

葉合 葉精 葉

如然 はり 付

○ 葉白濁はえり  
○ 葉合はえり  
○ 葉精はえり  
○ 葉はえり  
○ 葉肉はえり  
○ 葉下はえり  
○ 葉合はえり  
○ 葉精はえり  
○ 葉肉はえり  
○ 葉下はえり

○ 明日 叶肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

○ 葉葉 葉肉

元 葉書 葉肉 葉下

葉葉 葉肉 葉下

葉葉 葉肉 葉下

葉葉 葉肉 葉下

葉葉 葉肉 葉下

葉葉 葉肉 葉下

正午の出立

下坂

今晩未明

鶴旦巻の

平の白虎

大人先

師道

下坂

○ 山光駕り

○ 山入来り

○ 下坂

○ 下坂

○ 下坂

○ 下坂

○ 下坂

△ 書帖

三十一

車人今朝白虎山光

山下坂

今朝白虎山光

宗色

竹花

後山光

山光

山光駕り

山下坂

今朝白虎山光

宗色

竹花

三十一

用迄事

○白映為書

時竟英器

と映り映

○中相伴

付す者

○はる情

芳志

の深

○存は合

難の

○中雨

○は中

○遂お

居ん

多形

相眉

今夕の葉

情

中

伴

情

情

情

相見

存

存

存

存



○ 早速 不承教

即時 多刻

後刻 後より

○ 以来 糸上

多洋 糸和

○ 山 花 文 花

○ 芳 積 中 香

○ 回 被 回 後

▲ 書 紙

○ 素 襖 御 湯

湯 回

○ 雅 寄 知 之

親 友 雅 人

遠 寄 希 友

朋 友

○ 集 合 持 合

○ 先 生 家 の 家 通 を り の 御 湯 は 友 村 柄 と は

可 々 好 方 の 花 平 述

海 花 山 清 之 妙 新

中 之 不 合

○ 丸 三 平 述 の 花 平 は お 礼 の 中 上 下 へ け

冬 玉 之 状

至 日 付 雅 寄 一 枚 筆

信 集 合 以

○ 一 枚 筆 一 二 人 あり ○ 信 集 合 を

考 の 寄 書 之 友

○仙居言居

○崇寧

○德唐綺席

○揮毫振袖

○坊真失礼

○不致

○三宅如

○恒例く

徳唐ももたつたつての

徳唐も都る失致の

○三宅如

○坊真失礼

○不致

○三宅如

○恒例く

○坊真失礼

○坊真失礼

○三宅如

○不致

○南至徳目

○玉吟徳作

○秀保

○神種相足

○お吟

坊真失礼

三宅如

不致

南至徳目

玉吟徳作

秀保

神種相足

お吟

○ 為舟從先賢  
以寸楮抄

○ 松首の石  
不意 尺素

▲ 書體

○ 素書 消息  
尺素

履く玉ふん不ふん ○ 書目

○ はま作の詩書とりふ。倒履とはらうとら  
しやふまを別てよりうらびあいて  
まりの舞もむねのゆふきりんも後  
あるがゆふよりうらびのぞく徳むらこ

同正事

美毫令評讀作

○ 岡城 持漢

ニツのぐらさた  
よりののち紙と

○ 絶世 絶倫

真名

○ 老仙 法考

嘉集

○ 素集 群楚

もろく 佳實の光等

くも 漢交書有

のち紙とりふ。○ ちま名を佳實とは名にうらま  
清秋のまじり方とりあひ。○ は光等と地とは  
世玉のまじり方とあひあつての漢交

不交 漢法は出清法

連種

○ 村野くま

○ 雅活 色真

○ 南枝 白後

○ 雪花 水肌

○ 芳姿

○ 未定 櫻花

○ 新陽 将勅

○ 蘆 原 暖律

○ 陰 伏

○ 新陽 将勅

○ 蘆 原 暖律

○ 陰 伏

○ 新陽 将勅

うけむらうさく ちさきん せうの

昨夜の将南意く

寒英つ枝もゆき

なまきん

○ 昨夜の将南意く  
○ 寒英つ枝もゆき  
○ なまきん  
○ 未定 櫻花  
○ 新陽 将勅  
○ 蘆 原 暖律  
○ 陰 伏

○ 未定 櫻花

○ 新陽 将勅

○ 蘆 原 暖律

○ 陰 伏

○ 新陽 将勅

○ 蘆 原 暖律

○ 陰 伏

△書體

○累年 連年

○年 年

○年 年

○年 年

○年 年

○年 年

○年 年

雪年尺音く状

出年佛あふ大雪

今は凌ぐ

山行

富雪深増る難堪

増茶 増本

増茶

増茶

○山 山

○山 山

○山 山

○山 山

○山 山

存ん

増茶

増茶

増茶

増茶

増茶

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一  
 〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

〇 温純 一々  
 〇 芳鶴 一俸  
 〇 晴 一  
 〇 書 一

○ 毎朝の修  
○ 毎朝の修  
○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

○ 毎朝の修

何事か

○可凌可避

○可凌可避

○可凌可避

○可凌可避

○可凌可避

○可凌可避

○可凌可避

手に入るらし。○物とは別な事なり。いふ所の

よりあひまふ。○物事の中へいふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

ふ。○物事の中へいふ所あり。いふ所あり。い

△歳終

○終年終曆

○終年終曆

○終年終曆

○終年終曆

○終年終曆

○終年終曆

○終年終曆

歳終をむく状

歳末に浄院辞

目出夜中籠い

大念

寺の首浄院浄院



○ 宗後 宗後  
○ 宗門 宗門  
○ 宗家 宗家  
○ 宗室 宗室  
○ 宗親 宗親  
○ 宗族 宗族  
○ 宗嗣 宗嗣  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧

宗安室 宗安室

宗安室 宗安室

宗安室 宗安室

宗安室 宗安室

宗安室 宗安室

○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧  
○ 宗祧 宗祧

宗祧 宗祧

宗祧 宗祧

宗祧 宗祧

宗祧 宗祧

宗祧 宗祧

いすぢ

○可成り懐

可成り懐

可成り懐

可成り懐

○後保地

先例と

先例と

りつらりありつらりのあつねあを律お

ちあむかひきりそのあつねあを律お

正月お慶々と後保地とつめて後保地のあつね

正月も又後保地のあつねあを律お

り方へい年の内よりあつねあを律お

○後保地とはあつねあを律お

○後保地のあつねあを律お

あつねあを律お

いすぢ

右殿

御

御

御

△書

○これ

芳書

芳書

あつねあを律お

あつねあを律お

あつねあを律お

あつねあを律お

あつねあを律お

あつねあを律お

あつねあを律お

○ 書 書 書

○ 母

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

三十一

年尾の 赤飯

○ 赤飯のついでに...

○ 赤飯のついでに...

○ 赤飯のついでに...

○ 赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

○ 系 難 有

赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

赤飯のついでに...

三十一

○ 赤松 赤松

赤松 赤松

赤松

○ 赤松 赤松

赤松 赤松

○ 赤松 赤松

赤松

赤松

○ 赤松 赤松

赤松 赤松

赤松 赤松

赤松 赤松

赤松 赤松

十二月 赤松 赤松

松屋 赤松 赤松

